

第 51 回 日本ラグビーフットボール選手権大会 決勝 東芝ブレイブルーパス vs パナソニックワイルドナイツ 所感

2014年3月9日に行われた第51回 日本ラグビーフットボール選手権大会決勝 東芝ブレイブルーパス vs パナソニックワイルドナイツ^{(*)1}でのタックルに関わる2つの反則について考察しました。

1 つはジャンプしているプレーヤーへのタックルです。laws10.4^{(*)2}危険なプレー、不行跡が(a)~(s)まで並記されています。(i)の条文に反して自制することなくタックルしました。ボールをキャッチしたプレーヤーの体勢が崩れなかったため事故にはなりませんでしたが、厳しい笛と指摘が無いままにペナルティーキックでゲームが進められプレーヤーの心からの反省をしていない様子は残念でした。

2 つ目は地面にたたきつけるようにするタックルです。Law10.4(e)最初の条文の危険なタックルが3つ並記されています。要約すると以下の通りとなります。

①	早すぎる early tackle をしてはいけない	タックルは seize and stop であり、捕えて止めるプレーはそれ以上のことは不要不法である。
②	遅すぎる late tackle をしてはいけない	
③	タックルを dangerously にしてはいけない (dangerously は危険につながる具合に危険の可能性が高く)	

脱 3K スポーツが叫ばれている今日、テレビで観戦している多くの子供たちや親御さんがそれを目の当たりにすることは残念なことです。その他最近 laws16.4(b)^{(*)3}「プレーヤーはラックの中のボールを手で扱ってはならない。」というルールを掻い潜りボールを手で押さえるケースが多々見受けられます。まず立ち上がることに全力を注がないでボールを押さえる事は handle the ball (ボールを手で扱う) に該当しないと勝手に都合よく解釈してはいけません。レフリーが反則を吹かないというのは理由になりません。ラグビーを simpler and easier にする方向はプレーヤー自身のためのものであるのです。

「反則を3個にとどめる規律正しい攻守」^{(*)4}で優勝したワイルドナイツは立派でした。ラグビー関係者は「反則をしない」、「反則を少なくする」ことを力強く宣言し実行すべきです。それはラグビーの普及・発展に大切なことだと思います。

2014.03.16
西川 義行

*1: <http://www.rugby-japan.jp/national/score/print/print8519.html>

*2: <http://www.irblaws.com/index.php?law=10.4>

*3: <http://www.irblaws.com/index.php?law=16.4>

*4: 2014/3/10 朝日新聞朝刊 14 版 13 面 パナソニック中嶋監督のコメントより